

オオタカが棲む街なかに注目した 第3回・東京の環境を考えるシンポジウム

「東京都心部の自然・“緑島”の今と昔・そして未来」の報告

11月2日（土）午後1時。港区白金台に広がる緑島・自然教育園の講義室に44名の参加者をえて、シンポは定刻に始まりました。今回は市街地に棲む鳥に注目して調査・研究を進めている都市鳥研究会との共催。オオタカという思いもかけない貴種が都会地に棲むようになったため、2つの団体が共催して、また、昨年からは「自然教育園・野鳥調査会」も都市鳥研究会と共同で実施している関係から会場も自然教育園となりました。

今年のシンポは“オオタカ”を切り口として、東京都心部の自然“緑島”を考えてみました。基調講演では一番目に、都市鳥研究会の川内 博氏から、明治神宮での野鳥の生息状況が紹介され、ホオジロやモズ、コジュケイといった疎林・草原性の鳥の衰退と、ヒヨドリ・コゲラ・エナガといった森林性の鳥の台頭がグラフによって示され、また、その一連として森の猛禽・オオタカが定着し繁殖していることも語られました。さらに、話はアオバズクやキビタキといった夏鳥の動向や、繁殖期のパリの緑島の話まで広がりました。

次いで、〔公財〕日本野鳥の会の金井 裕氏より、都市緑地におけるオオタカの生態と生息状況についての講演があり、参加者のみなさんに、共通認識ができたところで、当会探鳥会リーダーの中村文夫氏、高橋嘉明氏が加わりパネルディスカッ



〔写真1〕 シンポジウム風景

東京の環境を考えるシンポジウム

(日本野鳥の会東京室内例会)

第3回 東京都心部の自然・“緑島”の今と昔・そして未来

日 時：2013年11月2日（土）13時～16時
会 場：国立科学博物館附属自然教育園・講義室
主 催：日本野鳥の会東京／都市鳥研究会

《プログラム》

【総司会】川沢祥三

基調講演・第1部

1. 東京都心の自然“緑島”における鳥たちの変遷
都市鳥研究会 川内 博氏
2. 都市緑地とオオタカの保全
日本野鳥の会 金井 裕氏

パネルディスカッション

【司会】川内 博

オオタカが生息するようになった「東京都心部」の環境とは

パネリスト：金井裕氏、中村文夫氏（日本野鳥の会東京）、
高橋嘉明氏（日本野鳥の会東京）

基調講演・第2部

3. 自然教育園60年間の自然の記録
自然教育園 矢野 亮氏

ションを展開〔写真1〕。23区内で繁殖するオオタカは、人やカメラマンの存在を十分意識していることやうまく利用されていると思われる生態などが話題となりました。



後半は、自然教育園の矢野 亮氏〔写真2・上〕から、約20haの敷地に残された武蔵野の自然・自然教育園60年間の自然の記録が語られました。わかりやすい内容で、樹木の移り変わり、チョウの変動、外来種の密放流、キアシドクガの大発生などが解説され、“緑島”の別の切り口が展開されました。参加者は多面的に考えることができ、有意義な午後となりました。

〔司会・進行：川沢祥三・大塚 豊〕